

宮崎県の年明け収穫の作型でも能力を発揮しています！

まい

舞みどり キャベツ

温暖なイメージがある宮崎県の海岸沿いの産地でも冬の寒さは厳しく、宮崎県高鍋における2016年12月中旬以降の平均最低気温は5℃前後、2017年1月中旬以降では2℃前後にまで下がりました。この厳しい温度条件下、キャベツ生産においては寒さ対策が必須ですが、露地栽培である以上その方法は限られます。弊社では、「舞みどり」導入によってこの課題を解決したいと考え、数年前から導入を提案、現地で高い評価を得ましたので報告します。



評価された3つのポイント

- ①耐寒性の高さ
- ②扁平な球形で容易な荷扱い
- ③業務向けにも重宝するボリューム



① 耐寒性の高さ

冒頭の写真のとおりの球は外葉によって保護され、寒さに当たっても球表面の寒傷みが極めて少なく、名前の通り美しい緑色を保てます。

② 扁平な球形で容易な荷扱い

箱詰め出荷の場合では球形で作業効率に差が出ます。「舞みどり」の球形は程よく扁平で、収穫時には誰でもつかみやすく、出荷作業では箱詰めしやすいと好評です。

③ 業務向けにも重宝するボリューム

冬どり品種ですが、「舞みどり」は低温条件下の結球性は実はそれほど高くありません。川南や高鍋においては9月15日までを目安に定植し、温度が下がりきるまでに結球を確保すること、また、業務用では株間は33～35cmとすることで、ボリュームが得やすくなり、株揃いも良くなります。右の写真のように、適正な定植日、栽植密度によって、2～2.5kgの重量が得られる品種です。芯も低く、葉身部分がより多く確保出来ます。



外葉に保護され美しい緑色を保つ「舞みどり」
(2017年2月10日撮影、宮崎県川南町にて)



適正な定植日、栽植密度で、ボリュームを確保

2017年冬どりの品種選択の時期が迫っています！今年の冬どりにはぜひ「舞みどり」をお選びください！